

慶應志木会会報

慶應志木会(慶應義塾志木高等学校同窓会)

2026  vol.46

志木会のWebサイトがリニューアルされました <https://keio-shikikai.com>

慶應志木会新 Web サイト



掲示板

BULLETIN BOARD

掲示板

新報の掲示板(同窓会、タクス会、クラブ等)作成希望の場合は、下記ボタンより依頼してください。
各掲示板の閲覧・投稿希望の方は、各掲示板の管理者の方まで、直接メールにて参加希望をお願いします。

[掲示板利用方法・利用ルール](#) →

[掲示板設定依頼](#) →

慶應義塾志木高校第36期卒業生の会

管理者: 阿部元雅

更新日: 2026年06月01日
作成日: 2026年06月01日

会報



目次

志木会の活動はいつも多彩、そして若い世代へ

- ・枇杷の会、歩こう会よりお知らせ
- ・同期会&OB会だより
- ・ホームカミングデー
- ・卒業40周年ご招待
- ・慶應義塾志木高等学校へのご支援(ご寄付)のお願い ほか

母校の「今」がわかります

- ・体育部会、文化部会 NOW / クラブ戦績
- ・志木高・志木会行事日程 ほか

役員・幹事・クラブ幹事一覧、収支報告

会長ご挨拶



慶應志木会会長

小坂 孝樹

慶應志木会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より志木会ならびに志木高校のために多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本会報を通じて「志木高 OB」と母校の現在をつなぎ、1年の活動をご報告できることを大変嬉しく思います。

2024年の会長就任時に掲げた“新執行部の任期を超えて発展し続ける、会員にとって魅力的かつ有意義な「慶應志木会」の礎を創る”という目標のもと、振返ると最初の1年は無我夢中で突っ走った年でした。これまでの取り組みを通して見えてきた課題は、17,000名を越える会員を有する大きな組織でありながら属人化していることでした。その改善に向け、個人の負担を軽減し、組織として機能するための委員会制の整備と権限委譲を進め、体制づくりに努めております。また、一貫教育校同窓会（五高等学校同窓会）の会長・副会長の集まりの機会も増えています。各校の同窓会の模範となっている志木会からも情報を提供し、情報も頂くオープンな連携を取り、相互刺激のある良き関係を築き、繋がりを深めていこうと相互に学び合う関係の構築にも取り組んでいます。

さらに、Webサイトのリニューアルや会報の発行方法見直しにより、情報発信の充実と経費削減を進めております。会報や今後の年間行事予定のほか「NEWS／トピックス」欄や「同期会&OB会だより」、ホームカミングデーの報告などを多くのカラー写真とともに掲載しております。また、「掲示板」はメンバー間の連絡や情報共有の場としてご利用いただけます。10月18日の連合三田会大会会場には例年通り志木会のブースを設け、行事報告や同好会の様子などを御覧いただけますので、活動内容を知り、親交を深める機会として、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

志木会の活動の1つとして志木高で活躍した生徒に贈る「慶應志木会賞」があります。本年度は蹴球部の活躍が目覚ましく第105回全国高校ラグビー大会にて初出場としては22大会振りとなるベスト16進出という快挙を成し遂げ14名を表彰しました。それ以外にも多くの個人、団体が活躍し文武両部門より素晴らしい成績を残し、高い評価を得た個人4名、5団体11名を表彰いたしました。

学校行事では去る3月24日に卒業式を行い、新たに250名の諸君が卒業、同時に慶應志木会76期となる新メンバーを仲間として迎えました。当日には恒例の卒業40周年として36期の会員各位39名が臨席されました。また4月6日には入学式が行われ255名の新しい後輩たちを迎え入れることが出来ました。

平成30年度より、財政の安定化を目的として会費制度を変更し、卒業時に卒業生全員から「終身会費」として3万円を頂戴しております。しかしながら、今後の安定的な運営とさらなる充実・発展のため、慶應志木会協力金のご支援を会員の皆様をお願い申し上げます。何卒ご理解のうえ、お力添えいただけますと幸いに存じます。

結びに、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈りいたしますとともに、引き続きのご高配を賜りますようお願い申し上げます。

名誉会長ご挨拶



慶應義塾志木高等学校長
慶應志木会名誉会長

河野 文彦

慶應志木会報第46号の刊行にあたり、心からお慶び申し上げます。
会員の皆様におかれましては、日頃より様々なご支援を賜り誠にありがとうございます。
慶應義塾志木高等学校を代表して、厚く御礼を申し上げます。

昨夏は、現在本校が行っている国際交流のうち二か国との間で交流協定の調印が行われました。それは豪州トゥーンバ・グラマースクール（中高男子一貫教育校）と台湾薇閣高級中学（小中高共学一貫教育校）です。豪州では、創立150年記念式典に招かれタイムカプセルの中に互いの思いを込めた品を納めました。台湾では、現地にて交流を始めた当初の功労者たちと旧交を温め互いに初心に帰りました。本校が、海外校と10年以上の交流を記念し更なる将来を約束し合ったことは初めての事です。今年は8月末フィンランド交流先ルオスタリヴォリ・ルシオン高校（中高共学一貫教育校）と交流10年を記念して改めて協定を結ぶ予定です。以上三か国との国際交流に関わった生徒・教職員は累計500名を超え、その国際体験が志木高生にとって有意義であることは言うまでもなく、今や塾の内外を問わず、本校進学を目指す中学生にとってもたいへん魅力的な動機となっています。

志木会とメンバー皆様のご支援あってこそその恩恵です。心から感謝を申し上げます。

去る3/24卒業式は、高橋美樹前校長、元教諭の村田文様、肝付紀江様、アルバート・アルバレス様、志木会副会長深川和己君（30期）をはじめとする志木会メンバーそして36期39名の皆様をお迎えして、76期卒業生250名の門出を祝いました。山内慶太常任理事の祝辞で披露された福澤諭吉先生と松永安左エ門氏の師弟関係を伝えるエピソードに、会場は和やかな一体感に包まれました。卒業後40年記念賞は招待者代表の有馬裕輔君（36期）にお渡しし壇上にて固い握手をしました。慶應志木会賞は、水泳部、端艇部、スキー部、鉄道研究会、新聞部の5団体11名の生徒たちが表彰されました。

4/6入学式は、79期255名が志木高の仲間に加わりました。伊藤公平塾長の若き塾生に対する親しみと期待のこもった祝辞を、新入生はしっかりと胸に刻んでいました。

入学式に先立つ3/1、創部68年にして初めて全国大会に出場した蹴球部へご支援をいただいた方々をお招きし、光彩館ホールにて「蹴球部全国ラグビーフットボール大会出場報告会」が開催されました。当日は、花園の活躍を伝える動画上映に始まり、駒形哲哉常任理事（34期）・志木会長小坂孝樹君（30期）の挨拶、楽志会副会長鳥羽克治君（29期）・竹井章監督による報告、主将浅野優心君のお礼の言葉、校長の結びの言葉をもって盛会裡にお開きになりました。

私は、今年元旦、花園第3回戦東福岡高戦終了のホイッスルを生涯忘れることはできません。

このホイッスルは、創立以来地中で根を張り巡らせてきた本校がこれからは青空へグングンと枝葉を伸ばしてゆく、いわば出撃の狼煙、時代を切り開く始まりのシンボルとしたいと思います。

昨年8/24初めての試みとして、大阪シティキャンパスで学校説明会を行ったところ、参加者から合格者が出ました。開催にあたり、前志木会長坂上隆彦君（23期）・山田則夫君（34期）をはじめとする関西志木高会メンバー皆様のご支援をいただきました。ありがとうございました。今年は9/5±15時開催予定です。これからも優秀な受験生の更なる多様性を求め、塾関係者との交流・連携をしながら、地方で行う学校説明会を計画・実施していきたいと思っています。

私たちは、高校3年・大学4年を合わせて7年間の一貫教育の中でじっくりと、謙虚で闊達自在な生徒を育てていきたいと考えています。彼らがいつの日か必ず、それぞれの花を咲かせることをイメージしています。そしてその日がやってくることを楽しみに日々活動しています。

志木会の皆様におかれては、本年もこれまで同様、ご支援ご協力いただけますよう宜しくお願い申し上げます。折にふれ、懐かしい母校までお運びいただければ、いつでも歓迎いたします。必ずや新たな発見がおりになると存じます。

社中協力、皆様のご健勝とますますのご発展をお祈り申し上げます。



新主事ご挨拶



慶應義塾志木高等学校主事

前北 馨

47 期の前北馨です。

高校時代、マンドリンクラブを辞めてふらふらしていたところを本井元教諭につかまり、俳句の道に引き摺りこまれました。以来 30 年、完全に俳人になってしまいました。勉強の方も英語、数学、化学が苦手ではっとしませんでした。残された道を進んで国語の教員になりました。

入社以来、中等部と志木高という 2 つの母校の間を行ったり来たりしていて、志木高は通算 8 年目になります。恩師の先生方をはじめ、優しい同僚の皆様に助けられながら、ここまでぬるま湯につかってきました。かい摘んで言えば、俳句や稲作の授業をしながら、志木の森ツアーや国際交流に軽く首を突っ込んで、放課後や長期休みはゴルフ部の生徒とゴルフというのが私の日常です。教員生活の折り返しを迎えて、いよいよ悠々自適の態勢に入った感があります。

そんな毎日に終止符が打たれてしまうのか、4 月から主事になりました。と言っても、前任の樋口聡教諭と 2 人体制になりましたし、校長には恩師の河野教諭が君臨されています。はっきり言われたわけではありませんが、歴代、大車輪の活躍をされてきた主事のイメージを、少し緩めて次に渡すというのが、私に託されたミッションなのではないかと思います。まずは、最初のひと月がにこにこしているうちに過ぎました。これからも志木高の平和が守られるよう笑顔でやって行きたいと思います。

さて、教務担当の樋口教諭に対して、私は生徒、生活、イベント担当ということで、不祥事から催事、式典まで幅広く受け持ちます。季節労働をノリと勢いでやっつけ、突発事案があれば対応に駆け回る、というイメージでしょうか。志木会の皆様との接点も多いですので、事務局の芹澤さんともどもこれからもご最員のほどお願いいたします。

志木高教職員の動向

教員

退職▶専任

三船 豪介 君(数学科) ※普通部へ異動(人事交流)
非常勤講師 12名

新任▶専任

宮崎 倫彰 君(数学科) ※女子高より異動(人事交流)
非常勤講師 9名

職員

退職▶事務員 1名(異動)、カウンセラー 1名、派遣職員 2名

新任▶事務員 1名、カウンセラー 1名、派遣職員 3名

訃報

山崎 勇 君(元社会科教諭) 小川 勝朗 君(元外国語科教諭) 謹んでご冥福をお祈りいたします

【志木高・志木会行事日程】

	慶應志木会		志木高等学校	
	R8年度予定	R7年度実績	R8年度予定	
4月			4/6 入学式（14：00） 4/8 ガイダンス 4/16 健康診断	
5月	5/28 幹事総会 5/31 枇杷の会* ¹ (皇居東御苑)	5/24 校内自然観察会 5/25 枇杷の会* ¹ (大磯海岸鳴立庵周辺) 5/29 幹事総会	5/12～5/14 1年生研修旅行 5/23 校内自然観察会 5/30 慶早戦	
6月	6/6 5高JKカップ	6/7 5高JKカップ	6/23～6/27 第1回定期試験 6/30～7/2 クラスマッチ	
7月	会報発行	会報発行	7/17 第140回志木演説会 7/21～ 夏季休業	
8月				
9月		9/20 校内自然観察会	～9/5 夏季休業 1年生救命講習 9/29～10/2 2年生研修旅行 9/30～10/3 3年生見学旅行	
10月	10/18 連合三田会大会 10/26 第13回志木マstars : 太平洋クラブ八千代コース 10/31 ホームカミングデー 収穫祭: 志木高 (26期&51期)	10/19 連合三田会大会 10/25 ホームカミングデー 収穫祭: 志木高 (25期&50期) 10/28 第12回志木マstars : 龍ヶ崎カントリー倶楽部	10/15 運動会 10/25 学校説明会 10/31～11/1 収穫祭	
11月	11/7 志木歩こう会 11/22 枇杷の会* ¹ (大磯海岸鳴立庵周辺)	11/8 志木歩こう会 (井の頭公園・玉川上水) 11/30 枇杷の会* ¹ (有栖川公園～慶應三田キャンパス)	11/16～11/20 第2回定期試験 11/24～11/26 クラスマッチ	
12月			12/18 第141回志木演説会 12/19～ 冬季休業	
1月			～1/11 冬季休業 1/12～1/15 3年生第3回定期試験 自己推薦入試	
2月	幹事新年会		一般・帰国生入試 2/16～2/19 1,2年生第3回定期試験	
3月	3/24 卒業式 卒業40周年招待(37期)	3/2 幹事新年会 3/24 卒業式 卒業40周年招待(36期)	3/24 卒業式（10：00）	

*1：枇杷の会は本井英元教諭（国語）のご指導のもとに開催されます

體育部會NOW / 第26回

競走部 部長

大垣内 暖人

2025年度より競走部の部長を務めております、大垣内暖人です。OBの皆さまには日頃からご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。おかげさまで、伝統ある競走部の活動を停滞させることなく、前進させることができております。

現在（2026年5月）、部員は3年生7名、2年生5名、1年生5名の計17名です。駅伝を主目的とした長距離走を軸に活動を行なっています。駅伝以外の大会では800m・1500m・3000m・5000m競走にも出場しています。部員数は多くないものの、走ることにやる気を持っている部員ばかりですので、散漫にならずに毎回質の高い練習がなされています。

顧問は大垣内のほか、副部長に大瀧学教諭と山内幾郎教諭がおり、3人体制で部の運営に努めております。技術指導は、大瀧教諭が自身の選手経験を生かした専門的な見地から指導をされています。本校にはトラックがないため、週3回、練馬区の大泉中央公園にて練習を行なっています。

ここでは昨年度の二つのトピックスをご紹介します。

1.「高校駅伝埼玉県予選会、チーム歴代2位の順位を残す」

11/4に行なわれました上記の大会において、68チーム中16位という成績を挙げました。これは5年前（2021年）に記録した10位に次ぐ、チーム歴代2位の順位です。前年（2024年）にコースアウトによる失格という悔しい想いを経験しましたが、その雪辱となりました。

2.「6年ぶりに夏合宿を行なう」

8/21～25に菅平高原にて合宿を行ないました。以前は夏休みに北海道の尾岱沼にて合宿を行なっていました。しかし、コロナ禍や宿舍の都合により、中断を余儀なくされておりました。菅平高原での合宿は、部員はもちろんのこと、部長も学生コーチも経験したことがなく、そもそも部員にとっては合宿自体がはじめてでした。手探りの状態でしたが、学生コーチの熱心なご指導のもと、実りある合宿を行なうことができました。ここでの経験が上記1の好成績につながったものと思います。

今年度もまた良きご報告ができればと思っております。引き続き、OBの皆さまにはご指導、ご支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

文化部会NOW／第26回

新聞部 部長

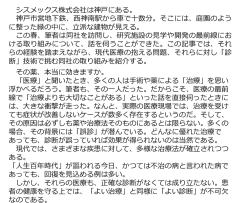
原田 千花

新聞部は、2026 年 4 月現在、3 名の部員で活動しています。主な活動内容は、年に 4 回、慶應志木新聞を Google Classroom で配信することです。新聞の内容は、論説文や小説、詩など、部員たちの好きなジャンルで、自由なテーマを設定し、記事を書いています。各新聞の完成には、おおよそ 2 ヶ月半を要しています。まず、部員たちは情報収集をした上で初稿を完成させ、その初稿について部員間でお互いに意見を出し合います。その後、記事の校正を 2 回ほど経た上で、レイアウトを考え、新聞を完成させます。新聞の発行を重ねるごとに、部員たちの文章力は伸び、昨年は 3 年生の部員が武蔵野文学賞「高校生部門」詩部門で最優秀賞を受賞しました。同文学賞は現役で活躍している作家が選考にあたっており、そうしたプロの目を経ての最優秀賞受賞という結果は、大変喜ばしいことでした。



血液一滴から、
世界へ

文・岡本憲眞(3年)



「XN-31」。マラリア原虫感染赤血球を、
わずか1分のうちに検出することができる。

こうした「診断」の重要性に鑑み、社会に大きく貢献している企業がある。それが、兵庫県神戸市に本社を置く医療機器メーカー、シスメックスである。同社は極めて正確な血液、尿、尿中에서도、身体への負担を抑えながら、正確な結果が得られる検査機器を開発している。医師にとっても、中でも「診断」に重きを置いたその技術は国内にひととらず、国境を越えてビジネスされている。

「海外からいらっしゃるビジネスパートナーの方々に、『和』の空気が感じられるよう、社内環境もこだわっているのですよ」

社員が暮らすには笑顔で語りかけていった。実際にこの敷地内には、お茶の淹めるとは日本家庭で習得されており、海外との深いつながりと、その中でも日本文化を大切にすることの姿勢が感じられた。

現代版馬の課題。その一つとして挙げられるのが気候格差である。国や地域によっては、そもそも十分な設備が整っていない。検査官を育てることもできない場合が存在する。これらは両者の関係者より特定の問題として指摘されている。また、気候格差の不平等によって、検査官が育たないケースも少なくない。

こうした状況に対し、スウェーデンは診断技術という切り口から、検査官のアプローチをとっている。

その代表例が「XN-31」である。これは主にマリヤ州域におけるマリヤ州移住を促進する設備であり、マリヤ州域に感染した山猿を、わずか1分で検出することを実現している。操作が非常に簡単であることが、検査官の育成にも大きく貢献している。

こうした設備を備えているところ、2024年には「第1回マリヤ州移住」を愛媛

その他、新聞部では、各学年でクラス対抗で行われるクラスマッチと呼ばれるバスケットボールやソフトボールの試合の取材も行い、その内容を記事にして学校ホームページに載せています。このような多くの記事作成の機会を経て、今後も部員たちの文書力の向上と、表現の場を提供することができれば、と願っています。

クラブ戦績

クラブ	戦績
体育部會	
硬式 野球部	2025年度選手権埼玉大会1回戦8-7(延長10回タイブレーク)対狭山清陵、2回戦1-9(7回コールド)対山村国際／南部地区新人大会1回戦0-4対細田学園／秋季南部地区予選1回戦19-0(5回コールド)対岩槻、代表決定戦5-1対細田学園／秋季県大会1回戦0-10(5回コールド)対花咲徳栄／2026年度春季南部地区予選代表決定戦12-2(5回コールド)対大宮南／春季県大会1回戦3-10(8回コールド)対西武台
競走部	県高校新人陸上競技大会西部地区予選会男子800m予選高木2'04"21 近藤2'05"94、男子1500m予選加藤4'14"70 鈴木4'15"95 決勝鈴木4'10"88 加藤4'26"78、男子5000m山下16'14"46 長野16'54"18／県高校新人陸上競技大会埼玉県大会男子800m予選高木2'01"33 男子1500m予選鈴木4'08"12 男子5000m山下16'20"49／全国高校駅伝競走大会埼玉県予選会総合16位／第87回奥多摩深谷駅伝競走大会Aチーム2'32"23(4位)、Bチーム2'39"29(7位)、Cチーム2'53"30(8位)
卓球部	2025関東・インターハイ埼玉県西部地区予選 シングルス出場、ダブルス出場、団体戦出場／岡部杯争奪卓球大会 出場／学年別強化大会(1年・2年) 出場／全日本卓球選手権大会埼玉県予選会 出場／西部地区大会 シングルス出場、団体戦出場／志木市民卓球大会 男子1部 三澤ベスト8、高田・中野・蓑島ベスト16、男子2部 千葉 優勝、小川ベスト4／埼玉県ジュニア卓球選手権大会 シングルス出場、ダブルス出場／2025新人卓球大会シングルス出場、ダブルス出場、団体戦出場
蹴球部	関東高校ラグビー大会埼玉県予選1回戦対合同D64-7、2回戦対草加52-3、準々決勝対熊谷工業7-31／国スポ埼玉県予選1回戦対川口北87-0、準々決勝対深谷31-28、準決勝対浦和24-7、決勝対熊谷17-27／全国大会予選2回戦対西武台90-3、準々決勝対鷺宮40-14、準決勝対熊谷工業42-10、決勝対川越東21-19、全国大会1回戦対青森山田48-12、2回戦対鹿児島実業31-17、3回戦対東福岡69-14
端艇部	第94回早慶レガッタ男子舵手付きクボルブル優勝／令和7年度関東高等学校ボート大会(本戦)男子ダブルスカル準決勝4位、男子舵手付きクボルブル準決勝5位／令和7年度インターハイ埼玉県予選男子シングルスカルB準決勝4位、C準決勝5位、男子ダブルスカルA決勝2位、B決勝4位、男子舵手付きクボルブル決勝2位／関東高等学校選抜ローイング大会男子舵手付きクボルブル決勝2位(全国進出)／第37回全国高等学校選抜ローイング大会男子舵手付きクボルブル決勝3位
バレーボール 部	西部支部春季大会 対朝霞2-1、対豊岡0-2、対所沢1-2、対西武台2-1／全国高等学校総合体育大会埼玉県予選会 対浦和学院0-2／第78回全日本バレーボール高等学校選手権大会西部地区予選会対東野0-2
ホッケー部	2026年1月10日「東京都ホッケー協会主催少年男女ウインター大会」(会場:大井ホッケー場)に、「慶應義塾志木高校・東京学芸大学附属高校合同チーム」として出場。対品川翔英1-4／2戦目0-3、対鹿沼東0-0／2戦目0-1
サッカー部	西部支部総体予選1回戦対城西川越2-0、2回戦対入間向陽0-1／選手権1次予選2回戦対深谷第ー2-1、3回戦対山村学園1-0、2次予選1回戦花咲徳栄0-3
バスケット ボール部	全国高等学校選手権大会埼玉県予選会対本庄東高校73-89 県ベスト32／令和7年度埼玉県リーグ戦SW1 1次リーグ第1節対豊岡高校81-48、第2節対坂戸高校70-52、第3節対狭山清陵高校114-44 2次リーグ第1節対ふじみ野高校106-64、第2節対山村国際高校61-100／令和7年度県民総合スポーツ大会1回戦対越谷西高校120-67、2回戦対昌平高校84-74、3回戦対春日部共栄高校85-71、4回戦対川越東高校79-73、決勝リーグ対正智深谷高校75-108、対埼玉栄高校44-108、対山村国際高校81-97 県ベスト4／令和8年度関東高等学校バスケットボール大会埼玉県予選1回戦対西武文理高校100-80、2回戦対昌平高校89-88、準々決勝対武蔵越生高校対94-68、準決勝対正智深谷高校50-97 県第4位となり関東大会出場決定

クラブ	戦績
弓術部	全国高等学校総合体育大会弓道競技県予選会個人:阿部、小林、相川、森川2次予選敗退、吉村第8位 団体第12位／埼玉県武道大会支部予選個人:吉村、成田2次予選敗退、松田第3位 団体:2次予選敗退／高等学校弓道競技新人大会県大会団体:武藤・西城戸・田村1次予選敗退、赤澤・牧田・増田2次予選敗退／埼玉県武道大会個人:支部対抗戦第4位
剣道部	西部支部大団体1回戦対川越東0(0)-2(3) 個人:伊澤ベスト16、深川2回戦敗退/関東予選県団体1回戦対久喜工業4(7)-0(1) 2回戦東京成徳深谷5(9)-0(0) 3回戦対本庄第一0(1)-4(7) 個人 :伊澤2回戦敗退、深川3回戦敗退/全国高校総合体育大会個人 伊澤2回戦敗退、伊藤1回戦敗退/五大学付属高校剣道大会ベスト4 予選リーグ対慶應藤沢4(7)-1(1)、対明大中野0(0)-3(5)、対法政3(5)-2(3)、対早稲田学院3(4)-1(2)、立教新座0(0)-5(8)、対明大中野1(1)-3(5)/第16回早慶対抗剣道試合 対早稲田本庄(対勝負)2(3)-2(5) 準優勝/西部支部新人戦 1回戦対飯能3(7)-0(1) 2回戦対市立川越4(7)-1(2) 3回戦対城北埼玉0(0)-4(7)/埼玉県高校剣道大会 深川2回戦敗退、大田2回戦敗退/剣道経験別大会(はじめて杯)坂本ベスト5、寺山予選リーグ2位敗退/関東私立高校選抜剣道大会 1回戦対明大中野0(1)-5(6)/柴田旗大野杯争奪剣道大会 1回戦対明星1(2)-3(4)
スキー部	インターハイ予選GS:羽生田7位、大鳥15位、岡23位、兵庫25位 SL:羽生田9位、大鳥DSQ、岡21位、兵庫DNF／国スポ予選 羽生田9位、伊藤18位、大鳥21位、岡24位、兵庫25位／関東大会 GS:羽生田DNF、大鳥DNF、岡DNF SL:羽生田42位、岡81位／インターハイSL:羽生田106位
ソフトテニス 部	R7年度ソフトテニス県北選手権大会 鈴木・瀬尾ペア3回戦進出／R7年度埼玉県高等学校ソフトテニス関東大会西部地区予選会 後藤・渡邊ペア/鈴木・瀬尾ペア2回戦進出／第53回東京六大学附属系属高等学校ソフトテニス大会 鈴木・渡邊ペア/後藤・瀬尾ペアベスト4／R7年度高等学校ソフトテニス新人大会 鈴木・瀬尾ペア県大会出場／R7年度春季西部リーグ 5部1位 4部昇格
水泳部	埼玉県学校総合体育大会100m平泳ぎ南雄翔第4位、100m背泳ぎ岡田和真第5位、200m背泳ぎ岡田和真第8位、400mメドレー岡田・南・中田・廣瀬第6位／埼玉県高等学校水泳競技新人大会100m背泳ぎ岡田和真 優勝、200m背泳ぎ岡田和真第4位、100m平泳ぎ南雄翔 第3位、200m平泳ぎ 南雄翔第6位、50m自由形 大木晴人第8位、400mメドレー岡田・南・吉成・大木 第7位
軟式野球部	第73回春季関東高等学校軟式野球大会予選1回戦対大宮国際17-0、2回戦対城西川越7-0、3回戦対浦和実業4-5／第70回全国高等学校軟式野球選手権埼玉大会2回戦対伊那学園3-1、3回戦対四校連合9-5、南関東大会対三浦学苑0-10／第66回秋季関東地区高等学校軟式野球大会埼玉県予選2回戦対三校連合10-0、3回戦対大宮国際9-2、4回戦対浦和実業1-16、本戦1回戦対関東第一0-2
空手部	関東高等学校体育大会埼玉予選会 個人形:初戦敗退、団体組手:初戦敗退／全国高等学校総合体育大会空手道競技県予選会 個人形:3回戦進出、団体組手:2回戦進出／高等学校空手道競技新人大会 個人組手:2回戦進出、団体組手:初戦敗退
文化部会	
器楽部	第66回吹奏楽コンクール地区大会 金賞受賞、県大会 銀賞受賞
ワグネル・ ソサエティー 男声合唱団	第68回埼玉県合唱コンクール銅賞受賞
鉄道研究会	全国高等学校鉄道模型コンテスト2025 モジュール部門:JR東日本新宿駅長賞、ベストリアル情景賞、理事長特別賞、ベストムービー賞

『慶應志木会賞』について

慶應志木会

慶應志木会賞は、クラブおよびその他の活動において、特に功績のあった団体または個人の業績を称え、もって学校生活の向上に資することを目的として平成19年3月の卒業式に初めて贈呈されました。体育、文化、一般の3部門において教員からの推薦をもとに選考委員会で決定し、本年度で20回目を迎えます。

本年度は、6団体の生徒と個人4名を表彰いたします。

1. 水泳部 (4名) 推薦者：水泳部部长 樋口 裕輔 教諭 (10年連続受賞)
第76回 関東高等学校選手権水泳競技大会 400m メドレーリレー出場
2. 端艇部 (3名) 推薦者：端艇部部长 原口 惇 教諭 (14年連続受賞)
端艇部副部长 池田 卓也 教諭・石川 直樹 教諭
2024年3月開催「第35回全国高等学校選抜ローイング大会」に男子舵手付きクォドルプルの種目(2,000m)で埼玉県代表として出場、10位入賞
2025年度埼玉県選抜選手として、第79回国民スポーツ大会ローイング競技において、少年男子舵手付きクォドルプルの種目でストロークとして出漕、埼玉県7位
3. スキー部 (1名) 推薦者：スキー部部长 岡田 吉央 教諭
大回転・回転のレースで関東大会出場を果たし、さらに回転のレースで全国大会出場
4. 鉄道研究会 (2名) 推薦者：鉄道研究会部長 石島 慎一郎 教諭
第17回全国高等学校鉄道模型コンテスト2025において モジュール部門 理事長特別賞、JR東日本新宿駅長賞、ベストリアル情景賞、ベストムービー賞
5. 新聞部 (1名) 推薦者：新聞部部长 原田 千花 教諭
第33回武蔵野文学賞「高校生部門」詩部門 最優秀賞受賞
6. 中野 雄太 君 推薦者：大垣内 暖人 教諭 (国語科)
『独楽吟 橘曙覧短歌コンクール』中学・高校生部門福井市長賞(第2位に相当)
7. 矢作 玲真 君 推薦者：原 浩史 教諭 (3A担任)
内村 朝樹 教諭 (数学科) 古川 創一 教諭 (理科)
第35回日本数学オリンピックの予選を通過し、本選出場
8. 松本 幸祐 君 推薦者：前北 馨 教諭 (国語科)
俳人協会第62回全国俳句大会「ジュニアの部」大会賞
9. 柳 健士郎 君 推薦者：前北 馨 教諭 (国語科)
俳人協会第64回全国俳句大会「ジュニアの部」優秀賞
10. 蹴球部 (14名) 推薦者：慶應志木会会長 小坂孝樹
令和7年度全国高等学校ラグビーフットボール大会
全国大会出場初出場でベスト16

以上

慶應義塾志木高等学校への



私学の高校は授業料と補助金で運営されておりますが、それだけでは到底足りない支出に寄付金を充てることにより、教育および高校生活の付加価値を大いに高めることが出来ます。慶應志木高では、以下にご案内する「**4つの寄付金受入口**」がありますが、いままで積極的にご案内することがありませんでした。長年のPTA募金や志木会を中心とした開設75年事業募金では皆様からの熱い支援を賜っておりましたが、これからは、特別な時にだけお願いするのではなく常時ご寄付を賜れるようにご案内をさせていただきたいと考えました。

つまり枯渇することなく常に有意義に活用できる資金の確保をさせていただきたいのです。

そのために志木高ホームページの「ご支援（ご寄付）をお考えの皆様」を改訂しました。

一時的に集中した募金活動によりご寄付いただくものではなく、このご案内により尊いお志をお持ちの方々から時を選ぶことなく恒常的にご寄付いただけるようになればたいへんありがたい限りです。

慶應義塾志木高等学校 校長 河野文彦

志木高校HP
ご支援(ご寄付)を
お考えの皆様→



1. 志木高等学校教育充実資金

多様性・専門性を踏まえた、慶應志木ならではの特徴的で創造性にあふれる教育プログラムの開発・実施など、まさに教育の充実に資するものに使用されます。趣意を特定されない場合は、こちらにご寄付・ご支援をお願いいたします。慶應志木の将来を大きく開くための資金となります。クレジットカード決済ページからお申込みいただけます。

※振込用紙でのお手続きをご希望の場合は、志木高事務室にご請求ください。

インターネット
寄付申込画面へ→



ご支援（ご寄付）のお願い

2. 慶應義塾志木高等学校教育研究基金

基金の利回り分を上限とし、特別授業への取り組み（メンタルヘルス、詩舞・落語）や、ワグネル・器楽部のコンサート支援、各部活動の関東大会・全国大会への遠征費用補助などに使われています。

3. 志木高等学校国際交流資金

国際交流事業は慶應志木の一大特徴であり、未永く継続していきたいと考えています。自国または留学先、それぞれのホームステイ先や学校で発生する国際交流の諸費用、特に留学生受入の際の日本国内での交通費や研修・観光経費などを主眼としています。慶應志木とその交流関係の中から、日本と世界の将来を託すことができる真のグローバル人材の育成・輩出を行っていくために使用されます。

4. 慶應志木会奨学基金

基金の利回りを上限として、奨学金として給付されています。数ある奨学金制度の中で、慶應志木の授業料に直接充当できる給付型の奨学金で、入学後にご家庭の経済状況が急変した場合に申請と審査により給付が行われます。

寄付金控除について

慶應義塾および慶應志木に対するご寄付は、税制上の優遇措置（寄附金控除）を受けることができます。なお、入学した年内の寄付金は、「学校の入学に係る寄附金」^{（注1）}とみなされ、寄附金控除の対象から除外される場合があります。また、公職選挙法の法令により寄附が禁止されている方は募集の対象になりません。

（注1）入学願書受付の開始日から入学が予定される年の年末までの期間内に納入したもの。

その他、受配者指定寄付、法人としてのご寄付、相続財産からのご寄付の場合など手続きや申請方法が異なる場合があります。詳細は慶應義塾基金室 Web サイト（<https://kikin.keio.ac.jp/>）をご覧ください。

お問い合わせ・
資料請求先

慶應義塾志木高等学校 事務室

住所 〒353-0004 埼玉県志木市本町4-14-1

TEL 048-471-1361 平日10:00～15:00 E-mail shiki-soumu@adst.keio.ac.jp

志木会会費制度の変更について

ご周知の通り、平成30年度より、会費制度を変更いたしました。

従来、「5年で1万円」（年2,000円換算）としてまいりました。しかしながら、会費納入率（平成29年度実績）は、全卒業生約15,000人の約18%と低く、会費徴収低迷により、志木会活動が決して楽な状況ではありませんでした。将来に向けて志木会の財政を安定させ、継続的に志木高を支援する盤石な体制づくり、さらにはOBの繋がりを充実させるため、学校側と話し合いを重ね、次のように変更しております。

【新制度について】68期より

- ① 卒業時に卒業生全員より「終身会費」として30,000円／人を納付いただく。
- ② OBの従来の会費制度を基本、廃止する。

●但し、合計3万円を未納の58期～67期までのOBは、3万円迄の残額を徴収する。

皆様のご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます。

慶應志木会 協力金 のお願い

平成30年度より財政の安定化を目的として会費制度を変更し、卒業時に卒業生全員より「終身会費」として30,000円を頂戴することといたしましたが、昨今の物価高騰により慶應志木会も大変厳しい運営を迫られております。この傾向はしばらく続くことが考えられ、慶應志木会の潤滑な運営の為に新たに協力金を会員の皆様をお願い申し上げる次第です。なお、協力金は1万円以上とし、協力頂いた方のお名前は志木会報、ウェブサイトに掲載させていただく予定です。

振込先 ゆうちょ銀行

口座名義 慶應志木会（ケイオウシキカイ）

口座番号 00170-6-537748

【他行から振込の場合】

〇一九（ゼロイチキュウ）支店 当座 0537748

*恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

お振込みの際、ご依頼欄は必ず【氏名 卒業期（又は卒業年） クラス（不明の場合省略）】を入力してください。お振込みいただきましたら、慶應志木会事務局までご一報ください。領収書を送付させていただきます。なお、税制上の優遇措置（寄附金控除）の対象にはなりませんのでご承知おきください

慶應志木会事務局： Tel 048-471-1959 Fax 048-471-1974 Mail info@keio-shikikai.jp

ご協力頂いた皆様

令和7年度は合計888,000円のご協力を賜りました。誠にありがとうございます。ここに感謝を込めて掲載申し上げます。

細谷 勝庸（11期）・今井 孝雄（12期）・大戸 武元（14期）・加藤 忠明（14期）・佐久間 義雄（14期）・小川 清久（15期）・倉田 伸二（15期）・小池 國夫（16期）・杉田 芳雄（16期）・野口 弘文（16期）・柳原 香積（16期）・田中 真介（17期）・高瀬 宗救（18期）・山田 諭史（18期）・重田 定太郎（19期）・染谷 幸一（19期）・菅原 瑞夫（20期）・高野 広一（20期）・上西 正之（23期）・植村 秀夫（23期）・森田 榮一（23期）・京本 修（24期）・世木 直宏（25期）・馬場 康弘（25期）・山田 純男（26期）・有志一同（28期）・戸高 克彦（29期）・小坂 孝樹（30期）・伊達 幸輝（30期）・深川 和己（30期）・同期会一同（31期）・上田 忍（34期）・山岐 真作（34期）・宇野 宏（35期）・関根 毅（36期）・関口 真太郎（46期）・田口 泰弘（54期）・イイダ アキラ・イクタ タケシ・ヤマダ タミオ

※お振込み後、ご連絡を頂いていない方はカタカナ表記とさせて頂きました。ご了承ください。

志木会の俳句会「枇杷の会」で詩的体験と交友の輪を広げませんか！

俳句は世界最短の定型詩と言われ、現在では世界の各国語でそれぞれHAIKUが作られています。気象変動が年々増しているものの四季の移ろいがある日本に最も相応しい表現方法かと思えます。

俳句の良さは、季語を中心として感動した景色や心象を詠んで作品として残せること、そして仲間と一緒にその感動を分かち合えることだと思います。

枇杷の会では年2回吟行しており、同窓の輪が年々広がって、若手の参加者も増えてきています。

長年ご指導をいただいている本井英元教諭は高濱虚子研究の第一人者で、大磯の鷗立庵の庵主もされています。風薫る五月、次回は皇居東御苑で吟行を行います。

句会後は軽く一杯楽しみながら友人の消息や昔話などを語り合い、世代を超えた仲間作りが出来ます。志木高に入って本当に良かったと思える機会です。俳句の経験がない方々もこれを機にぜひ句会に参加してみませんか。

今年度は次のように予定しています。志木会会員を初め多くの皆様のご参加をお待ちしています。

- ・令和8年 5月31日(日) 皇居東御苑
- ・令和8年11月22日(日) 鷗立庵(大磯町)

詳細はメールマガジンで案内いたします。参加のお申し込みは志木会事務局の芹澤様まで。

第60回枇杷の会 有栖川宮記念公園 句会報告

昨年11月30日、有栖川宮記念公園で集合し、三田キャンパスまで各自吟行し、懐かしい第一校舎で句会を行いました。大銀杏もまだまだ健在でした。

本井英元教諭にはいつもながら選句毎に丁寧に講評いただきました。

また俳句はできるだけ旧仮名遣いで作ること、自分の思いを伝えること等アドバイスをいただきました。

(参加者の自選句、順不同)

・弄りて髭も温しや日向ぼこ	英	・冬日差水面に映る淡い影	幸次郎
・酒の友手繰る新蕎麦塩加減	恭輔	・初々しブライダルフォト冬うらら	伸次
・日のひかり手繰り手繰りて冬の蝶	次郎	・黄金の小山のごとし古銀杏	健一
・山茶花の白瓣やかに日のなかに	洋太	・従心になほためらひし日記買う	俊一
・道の端に彩り添えし枯れ葉かな	夏樹	・紅葉燃ゆ石塀高き大使館	誠
・坂のまちに十一月の光満つ	文比古	・西校舎裏の広場の日向ぼこ	祐之
・釣る人の真うしろに立ち冬帽子	かおる	・路地奥に釣堀跡や秋あはれ	正博
・図書館の玻璃も黄色に大銀杏	しはす	・イチョウの木あらん限りの黄色かな	栄一
・冬晴れや真つ赤な耳の薄着の子	陽	・青天を衝き聳え立つ黄葉かな	善兵衛

今までの活動は志木会Webサイトに掲載しています。<https://keio-shikikai.com>

湯浅 善衛 (31期)

2026 年 志木歩こう会 “両国界隈 江戸東京博物館とちゃんこ鍋”

「志木歩こう会」を以下のとおり実施いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

ご家族・ご友人の参加も大歓迎です。

開催日時：令和8年11月7日(土)

集合場所：JR両国駅 西口 午前10時00分集合

参加申込：10月23日(金) までに志木会事務局へ連絡

メール info@keio-shikikai.jp TEL 048-471-1959

費 用：昼食など約4,000円

幹 事：嶋田 廣雅 (23期)



同期会 & OB会 だより

第15期 —昭和40年卒—

第45回亦楽会のご報告と第46回亦楽会の開催のご案内

令和7年11月4日、第45回を迎えた15期亦楽会が三田のファカルティクラブにて開催されました。冒頭亦楽会の名付け親、志木校第4代校長雨宮正夫教諭から1979年11月に当時幹事の小野直君に届いた葉書をご披露し、来年以降も亦楽会を開催することを発表させていただきました。

続いて志木校1996年卒の慶應義塾大学医学部外科学（呼吸器）教授で慶應病院副院長の朝倉啓介氏をお招きして「大先輩にお伝えしたい医療に関するいろいろ」と題した講演を行っていただきました。

各地の関連病院に2,000人を超す医師を派遣している慶應大学病院について、かかりつけ医の重要性とその選び方（近所の評判、三代会HPの診療情報検索、医療情報ネット「ナヴィ」で検索）、先生の専門分野である肺がん医療はがんの遺伝子を調べることで治療対策を行うゲノム時代になっていること、ロボットを使った手術の模様、シミュレーターを使ったロボット外科技術の訓練、がんを切らずに治す凍結療法など大変興味深いお話を聞くことができました。講演の最後に語ってくれた「肺がん治療は高齢者でも可能な時代に」は今年度80歳の壁を迎える我々世代にとって、とても心強いメッセージでした。

講演の後は参加者全員の紹介を司会の倉田君が行い、にぎやかな歓談タイムとなりました。

♫の挨拶は三野君より第46回以降も今年の幹事3人に加え第42回、43回の幹事の皆さんの協力を得て続けますとの決意表明、そして大平君のテクによる若き血でお開きとなりました。今回は40名を超すと見込んでおりましたが直前に体調を崩して参加できない方もあり34名の参加でした。

第46回亦楽会は今年も三田キャンパス「ファカルティクラブ」にて11月5日(木) に開催されます。皆様振るってのご参加お待ちしております。

文責:15期亦楽会代表幹事 高野 信一



第15期 —昭和40年卒—

「日本の建設機械史 江戸時代の作業船から無人オフロードダンプまで」が出版されました。

副題の「無人オフロードダンプ」がどんなものかご存じですか？一般道路は走行できませんが南米チリ、オーストラリアなどの露天掘りの大規模鉱山で採掘された鉱物を全自動運転で運搬する300トン積み of 超大型ダンプカーのことです。志木会会報2020 vol.40「70歳過ぎて博士号取れます」と2021年志木会メルマガ第206号 R.03 06/18号でご紹介させていただいた「写真で読み解く世界の建設機械史」の著者15期（亦楽会）大川聰君が三樹書房より「日本の建設機械史 江戸時代の作業船から無人オフロードダンプまで」を昨年7月に出版しました。昨年のNHKの大河ドラマべらぼうで江戸幕府の蝦夷地上知（あげち）の話題が出てきておりますが、本著の第1章は蝦夷地を幕領とし、対ロシア防衛の強化策として北方領土エトロフ島の港づくりに活躍した和製の建機にはじまり、メカトロニクス、通信技術など最先端技術を駆使し、世界有数の鉱山で活躍する無人オフロードダンプなど建機の歴史をまとめた研究成果です。大川君が建機のトップメーカーで長く研究、技術開発に携わっていたことから、各種建機の開発がなぜ、誰が、どのようになされたかを、その歴史的背景を含め掘り下げています。建機にかかわる人だけでなく、モノづくり、技術開発にかかわっている方にはとても参考になる一冊です。全国書店で販売されますが、800部限定配本です。なかなか一般書店では手に入りにくいかと思いますので、お近くの公立図書館にリクエストしていただきお読みいただくか、今ならAmazonで入手可能です。なお、本書の著者である大川君は本年3月に急逝されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

日本の建設機械史

The History of Japanese Construction Machinery
江戸時代の作業船から無人オフロードダンプまで
from dredging ships of the Edo period to modern autonomous off-road dump trucks

博士
(システムエンジニアリング学)
大川 聡
Satoshi Okawa



世界をリードする日本の建設機械の足跡

日本の建設機械は、江戸時代の原始的な作業船から始まった。幕末の蒸気機関船輸入を機に陸上での活用が進み、明治時代には国産化も開始されている。関東大震災後の不況と戦争準備により一時的な停滞を経て、第二次世界大戦中に建設機械の開発が本格化し、戦後に、日本の建設機械は急速な品質向上を遂げた。欧米からの技術導入と国内メーカーの競争により、特に油圧ショベル分野で日本は世界をリードする存在となり、近年はエレクトロニクス技術を生かしたハイブリッド建機や、テレマティクス搭載建機、ICT建機を開発するなど世界の建設機械業界を牽引することとなる。本書では開発者の証言や史料から、その歴史の断面を綴る。

全国書店800部 限定配本

SHIKI PRESS
三樹書房

15期亦楽会 倉田 伸二

ホッケー部OB会

2025年度のホッケー部は、新1年生が3名入部したことにより6名で活動がスタートしました。11人で競技する種目ため、2025年度中は志木高OBや大学OB等の参加協力を得て、練習や練習試合を行ってきました。

公式戦に近い形での試合参加としては、2026年1月10日の「東京都ホッケー協会主催少年男女ウインター大会」（大井ホッケー場）に、「慶應義塾志木高校・東京学芸大学附属高校合同チーム」として出場しました。結果は以下のとおりです。

対品川翔英 1-4 / 2戦目 0-3、対鹿沼東 0-0 / 2戦目 0-1

2026年度に入り、4月末の時点で5人の新入部員が入ってきていますが、引き続き新入部員の勧誘に努め、ホッケー競技活動の充実を目指してまいります。

ホッケー部監督 36期 神山 健一

バスケットボール部OB会(野火止会)

本年度、佐野教諭率いる志木高バスケットボール部は、1963年の創部以来の歴史に残る素晴らしい活躍を見せてくれました。



関東大会準々決勝の星槎国際高校戦ジャンプボール、白の慶應5番は身長190cmの佐々木君



志木高応援のために宇都宮会場2階スタンドに世を超えて集まったOBと保護者の皆様

1月の新人大会埼玉県予選では、強豪の昌平高校を破って県第4位となりました。惜しくもあと一歩で関東新人大会出場は逃したものの、選手たちはその悔しさを糧に、春の関東大会出場を目標として、2度の去来舎での合宿や様々な実力校との練習試合を重ねながら力を蓄えていきました。

新人大会の好成績により支部予選を免除され、万全の状態で臨んだ5月の県予選では、2回戦で再び昌平高校と対戦しました。多くのOBが見守る中で試合は劇的な接戦となりましたが、89対88で競り勝ち、その後も勝利を重ねて見事関東大会出場を決定しました。春の関東大会出場は創部以来初の快挙であり、埼玉県を超える地域ブロック大会への出場としても、2013年の関東新人大会以来13年ぶりとなりました。

関東大会まで残された期間は3週間でしたが、私たちOB会(野火止会)では選手たちの遠征費負担軽減などを目的に支援募金を開始し、志木会にも協力をお願いしました。その結果、120名を超える皆様から300万円を超えるご寄付をお寄せいただきました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

6月に宇都宮で開催された関東大会では、初戦で地元栃木県のスポーツ科を擁する県立小山南高校と対戦しました。会場が完全アウェーとなることも心配されましたが、当日は創部当時を知る大先輩から卒業間もない大学生まで、世を超えて多くのOBが駆けつけ、保護者の皆様とともに2階観客席を埋め尽くしました。ハーフタイムには現役部員の音頭でスタンドが一体となり若き血を熱唱、選手たちを後押しすることができました。その声援に応えた選手たちは95対87で小山南高校を破り、志木高バスケットボール部にとって記念すべき関東大会初勝利を挙げました。続く準々決勝では、バスケットボール専攻科を持つ神奈川県星槎国際高校湘南に67対108で敗れましたが、関東の強豪校との対戦を通じて、今後につながる大変貴重な経験を積むことができました。

今回の関東大会は、志木高バスケットボール部の着実な成長と、OBの強い結束を改めて実感できた素晴らしい機会となりました。私たち野火止会はこれからも現役選手たちを支え、志木高バスケットボール部のさらなる飛躍を後押ししてまいります。引き続き皆様のご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

野火止会会長 30期 岡 篤

第12回志木マスタース開催報告



第12回志木マスタースが2025年10月28日龍ヶ崎カントリー倶楽部にて開催され、総勢23組、82名が参加されました。昨今の酷暑を避け、例年9月に開催していた日程を1ヶ月半ほど後ろ倒ししての開催により、みなさま快適にプレーができたものと思います。

優勝はネット72.4のスコアを出された第25期の中野裕至さん、かなりの難コースでみなさま苦労された中でも見事にその実力を発揮されました。おめでとうございます！

ベスグロ賞は私と同期であり、そして同じ組でラウンドした第37期の田内久晴君で、83というスコアで今回も抜群の安定感を発揮しました。

当日は、同期の田内久晴君、芥川達哉君という組み合わせで、お互いの近況報告などを話しながら、とてもリラックスしてプレーすることができました。優しく頼りになる先輩はもちろんですが、同期とこうして健康にラウンドできる喜びを感じる時間でもありました。

また、今回のコース選定においては、第22期の本健太郎さんに多大なるご協力を賜りました。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

最後に、この志木マスタースの運営をされている第27期の永井利宗さんを代表とする幹事のみなさま、コース選定や開催時期など試行錯誤しながらもこのような素晴らしいコンペを継続的に企画、開催していただき、誠にありがとうございました。今後も志木マスタースにより多くの志木高校卒業生が参加され、懇親を深めることができれば嬉しいです。

第37期 森田 穰治





第13回志木マスタースゴルフ2026 参加者募集のお知らせ



開催概要

■開催日時：2026年10月26日(月)

TEE UP アウト&イン 7:58～ 8分間隔
(アウト10組・イン10組 計20組80名)

■開催場所：太平洋クラブ八千代コース

<https://www.taiheiyoclub.co.jp/course/yachiyo/>

〒276-0015 千葉県八千代市米本 2834

TEL 047-488-3159 FAX 047-488-3636

■参加会費：¥25,670-(税込) キャディ/ランチ付き

※コンペ会費**¥3,000**のみ受付デスクにてチェックイン時に徴収

※プレーフィー、お食事代金等は個人精算とさせていただきます。

※3バックの場合の差額はコンペ会費より事務局が負担

※パーティー費用(フリーソフトドリンク+軽食)はコンペ会費より事務局が負担

※ご来場の際はジャケット着用をお願いいたします。

■競技方法：新ペリア方式

■カート利用について：当倶楽部は歩いてのゴルフプレーを原則としていますが、カート希望の方は2人乗りカート¥5,500-で予約可能です。原則コース内の乗り入れ可能です。先着20台となります。

■クラブバスについて：完全予約制です。

※エントリーは天野 riripapa16@gmail.com までお願いいたします。



卒業40周年ご招待

36期 澤田 克己

40年ぶりに足を踏み入れた志木高の体育館。式次第にある通りきっかり1時間で終わった卒業式の会場から外に出ようとしながら、振り向いてステージを見やると懐かしさがこみあげてきました。余計な装飾は何もなく、ただ演壇の後ろに大きな福沢先生の肖像画だけがかけられています。それを見て、「ああ、そうだった。ここだよ」という感情にとらわれたのです。

私たちの頃は普通部、中等部からの内部進学者は毎年数人しかおらず、ほとんどがいわゆる「志木高外部」でした。入学式が行われたこの体育館は、私たちの多くにとって慶應義塾に迎えられた原点とも言える場所です。歌詞カードの助けを借りながらではあるものの、旧友たちと声を合わせて塾歌を歌うことで杜中としての意識があらためて呼び起こされました。

同期で集まった時に歌うのは「若き血」で、こちらはもちろん歌詞カードなどいりません。塾生、塾員にも「それ、わかる!」と仰ってくださる方がそれなりにいるのではないかと思います。それでも儀式で塾歌を斉唱することの力は強い。同じ場所で、同じ時に、一つのメロディーに合わせて同じ歌詞を口にすることで作られる共同体意識の強さ、というものを改めて実感させられました。

昨年は日曜日の卒業式だったようですが、今年は火曜日の3月24日。平日の午前中という悪条件ではありましたが、39人の同期が集まりました。校内での懇親会を終えた後、池袋のビアホールに場所を移しての二次会、その後に近所の焼鳥屋で三次会と、昼間から大いに盛り上がりました。高校時代の仲間との付き合いは、もうすぐ還暦という年齢を忘れさせてくれるようです。

実は、私たちの代は卒業記念として校外でこんなイベントをやったよな、というのも思い出したのですが、他の幹事から「それは書くな」と言われたので自制しておきます。バブルの入り口にいた1986年らしく、高校生にはまったく似つかわしくない（と今では言われるであろう）ものでした。

36期はフェイスブックのグループで連絡を取りながら、不定期に集まっています。卒業25周年で収穫祭に招待されたのを機に立ち上げたグループですが、そのことを知らない同期もいるかもしれません。興味のある方は <keioshiki36@gmail.com> にメールしてください。

今回の卒業式への出席は、志木高で育んだ絆を再確認するよい機会となりました。ご招待いただき、ありがとうございました。





ホームカミングデー報告



ホームカミングデー報告 —25期—

俺たちのシキコーは今もシキコーだ

令和7年10月25日、我々25期は招かれ、久しぶりに母校に集まった。総勢68名。

懐かしいあの顔この顔……とはならず、「お前誰よ？」状態。劣化とまでは言わないが、その変貌ぶりに驚愕。まあ、「自分も鏡を見てみろよ」という話ではあるのだが。

ご来賓として臨席いただいた、小坂孝樹慶應志木会会長、山内慶太慶應義塾常任理事、河野文彦校長の皆様、そしてこのイベントの実現にご尽力いただいた関係者の方々に、改めて心より感謝を申し上げます。

式典では、幹事の指名により、25期代表として挨拶させていただいた。

一期最初の授業が日本史で、いきなり大塩平八郎の乱から始まり、一期で明治維新までしか進まなかったこと。生徒会予算案が総会で否決され、翌週の午後の授業を臨時総会に充ててもらったこと。お恥ずかしいが、停学やむなしの失敗に対し、一人の尊厳を守りつつ、誰もが納得する寛大な措置を取っていただいたこと。

自然豊かなキャンパスと人間味あふれる教職員に恵まれた、あの自由な3年間こそが自分の原点である——そんな思いを、久しぶりの仲間と母校の空気に触れ、やや気分も高揚したまま話させていただいた。

同期なのだから仲間がウケるのは当然だと思っていたが、臨席された河野校長が大いに反応されていたのには、話しながら驚いた。

式典後、事務室の受付で何気なく手にした2026年の学校案内。河野校長の挨拶文は、「慶應義塾志木高等学校は森の中にあります。」で始まり、「多様性豊かなキャンパス・専門性の高い授業・創造性あふれる生徒」と続いていた。家に持ち帰り熟読し、確信し、そして何より嬉しかった。俺たちのシキコーは今もシキコーだ。



25期 大野 春光

ホームカミングデー報告 —50期—

2025年10月25日、卒業25周年を迎えた50期生としてホームカミングデーにご招待いただき、卒業式以来となる志木高を訪れました。久しぶりに乗車した東上線の車窓から広がる風景に青春の日々を思い返しながら志木駅に降り立つと、駅ビルをはじめ周辺の景観が少し変わってありました。かつて毎日のように歩いた道でありながら、志木高までの道のりで思わず Google Map を頼ることになるという、思いがけない出来事から一日が始まりました。そして、会場となった職員室上の会議室に入るや否や、25期の先輩方が約70名も集まっていたのに対し、我々50期はわずか5名という参加状況で、その差に圧倒される思いでした。

会場では、河野校長をはじめ、城石教諭、井澤教諭、中地教諭など、在学時にご指導いただいた先生方の変わらぬお元気なご様子を拝見し、久方ぶりに生徒時代の懐かしい気持ちが込み上げ、当時の思い出話にも花が咲きました。ホームカミングデー終了後には、教室、食堂、体育館、校庭、プール、部活棟を巡り歩き、仲間と語らいながら、当時の記憶がつい数年前の出来事のように鮮明によみがえってまいりました。当日開催

されていた収穫祭では、それぞれ思い思いの過ごし方を楽しむ志木高生の姿に当時の自分たちを重ね合わせる一方、自らの子どもがちょうど高校生前後の年齢となったことにも思い至り、時の流れの早さをしみじみと感じました。

今回の参加人数こそ少なかったものの、この再会を契機として、東京のみならずニューヨークでも同窓会が開催されるなど、50期のつながりが再び動き始めています。次回、卒業50周年で再び招かれる折には、より多くの同期とともに志木高を訪れたいと願っております。

50期 高岡 功



26期&51期 ホームカミングデーのお知らせ

日時 令和8年10月31日(土)

場所 慶應志木高校

会費 無料

*開催時間、開催方法の詳細が決まりましたら、メールマガジン・Web サイトなどでご案内させていただきます。

収穫祭お知らせ

生徒会収穫祭実行委員会 委員長 福本 隼也君

皆さんこんにちは。第79回収穫祭実行委員長の福本隼也です。

志木高創立以来長年続いてきた収穫祭も今年で第79回となりました。本年度の収穫祭のテーマは「ignition」です。このテーマには、普段は各々自由に過ごしている志木高生たちのやる気に「点火」をし、思いを一つにしたいという意味だけでなく、今回の収穫祭が訪れるすべての方々の気持ちが昂るような「点火装置」そのものにしたいという意味も込められています。このテーマを元に、我々収穫祭実行委員一同全力を尽くして参ります。

つきましては、志木会の皆さまにおかれましても、ぜひご来場いただき、後輩たちの活躍をご覧いただけましたら幸いです。志木高生一同お待ちしております。

慶應志木会役員・幹事・クラブ幹事（令和8年度）

■執行部

◆役員

名誉会長	河野 文彦（校長）	
会長	小坂 孝樹（30期）	
副会長	深川 和己（30期）	企画部会長（企画・広報・同好会活動）
	宇野 宏（35期）	総務部会長（財務・会計・募金・協力金）
幹事長	佐藤 正人（30期）	情報管理部会長（学年幹事・名簿管理・渉外）
副幹事長	高崎 洋一（30期）	
監事	上西 正之（23期）	
	森田 榮一（23期）	

◆事務局

田内 久晴（37期）	事務局長
永井 利宗（27期）	企画・広報担当
原田 仁敦（30期）	財務担当
甲斐 正英（40期）	財務担当
青木 勝（33期）	総務担当
天野 徳雄（36期）	総務担当
田口 錬（43期）	総務担当
藪原 一暁（43期）	総務担当
中西 聡人（43期）	総務担当
中西 太一（30期）	広報担当
大久保佐太郎（55期）	広報担当

■顧問

龍野 和久（1期）	五老 輝彦（9期）	品川 雅貴（12期）
原田 薫（15期）	鹿野 元章（16期）	阪東 宗文（16期）
西村 孝一（17期）	増山 治一郎（17期）	金子 博志（20期）
松下 賢次（21期）	中村 弘司（23期）	坂上 隆彦（23期）

■幹事

期	卒業年	幹事							
1	S.26 (1951) 年卒	藤井 淳							
2	S.27 (1952) 年卒	忽滑谷 岱司							
3	S.28 (1953) 年卒								
4	S.29 (1954) 年卒	高橋 公郎	伊藤 金次郎	三浦 靖夫					
5	S.30 (1955) 年卒	寺嶋 延行	関山 清	木下 聡					
6	S.31 (1956) 年卒	茂木 光義							
7	S.32 (1957) 年卒	熊崎 順次郎	鈴木 正治	渡辺 正					
8	S.33 (1958) 年卒	青木 宏至	品川 宗弘	大須賀 均	磯部 和宏				
9	S.34 (1959) 年卒	五老 輝彦	佐々木 弘暢	荒井 浩					
10	S.35 (1960) 年卒	馬場 紘二	斉藤 彰	吉川 忠裕					
11	S.36 (1961) 年卒	西 光由	渋谷 哲男	扇原 浩志	佐藤 直司				
12	S.37 (1962) 年卒	川久保 達也	岡田 幸次郎	並木 美和					
13	S.38 (1963) 年卒	清水 武寿	椎野 開八郎	飯島 智					
14	S.39 (1964) 年卒	三関 峻	佐久間 義雄	藤田 正壽	加藤 忠明	飯田 晃久	大胡 剛人		
15	S.40 (1965) 年卒	小笠原 準一	倉田 伸二	深瀬 啓司					
16	S.41 (1966) 年卒	緒方 信次	恩田 博司	近藤 隆夫					
17	S.42 (1967) 年卒	莊 敬典	北村 基樹	前嶋 品廣	野村 真	中村 康二	川鍋 二郎		
18	S.43 (1968) 年卒	伊藤 博行	黒田 豊	間宮 勝	三村 信二	青沼 広海	大場 紹吉		
19	S.44 (1969) 年卒	齋藤 治雄	鈴木 基晴	小森 雅裕					
20	S.45 (1970) 年卒	杉 雅俊	金子 博志						
21	S.46 (1971) 年卒	飯島 敏一	福地 敏之	折登 泰樹	小林 哲男	森 光太郎	内山 洋一		
		長野 和郎							
22	S.47 (1972) 年卒	金子 康雄	櫻井 造雄	三木 哲郎	深澤 澄	江夏 雄二	増田 裕		
		城 克	深井 昭						
23	S.48 (1973) 年卒	夏目 雅	梅澤 由起	森田 榮一	三義 英一	太田 敏一	嶋田 廣雅		
		京本 修	塩澤 修平	山本 耕司	剣持 俊幸	大久保 裕二	油納 正雄		
24	S.49 (1974) 年卒	加賀美 喜久							
25	S.50 (1975) 年卒	小川 洋	高橋 宣行	島田 徹					
26	S.51 (1976) 年卒	山田 純男	船山 剛	小池 雅澄	善木 達明	澤田 尚史	中川 龍士		
		渡辺 規人	萩原 弘幸						
27	S.52 (1977) 年卒	鬼頭 真一郎	金森 悟	高橋 健三郎					
28	S.53 (1978) 年卒	伊能 重雄	池田 欽哉	南村 譲治	大池 真人				
29	S.54 (1979) 年卒	鳥羽 克治	清重 利昌	池上 忠嗣	相田 英文				
30	S.55 (1980) 年卒	岸田 一男	中西 太一	鈴木 克彦	岡 篤	加藤 哲哉			
31	S.56 (1981) 年卒	吉村 康	萩田 健之	小形 久士	金子 羊一	伊沢 豊			

32	S.57 (1982) 年卒	町野 素久	横江 資友	梅田 幸彦	鈴木 厚	伊勢 学	小澤 徳
33	S.58 (1983) 年卒	瀬田 俊一	久保 修一	稲村 隆司			
34	S.59 (1984) 年卒	大内 正博	山下 孝	古長 玄一郎			
35	S.60 (1985) 年卒	須佐美 文忠 大澤 宏樹	昌谷 健司	岩瀬 克也	永原 圭司	坂井 琢磨	萩原 太造
36	S.61 (1986) 年卒	阿部 元雅	澤田 克己				
37	S.62 (1987) 年卒	鍋島 康友	永田 博詳	植島 博之	原田 純一	木村 尚敬	
38	S.63 (1988) 年卒	知久 康成	中里 栄基	金子 隆則	荒瀬 光宏		
39	H. 1 (1989) 年卒	丸山 和紀	田中 浩樹	大西 重夫	鈴川 智徳		
40	H. 2 (1990) 年卒	井上 晴生	税所 篤史	森 直樹	鈴木 規央		
41	H. 3 (1991) 年卒	柏木 徹	三田 貴良	須田 光貴			
42	H. 4 (1992) 年卒	安 重煥	小島 圭	御山 義明	大澤 康算		
43	H. 5 (1993) 年卒	高松 智之	香野 日高	遠山 尚			
44	H. 6 (1994) 年卒	宮田 真詩					
45	H. 7 (1995) 年卒	若松 洋雄	小山 一	小川 圭	星川 太輔		
46	H. 8 (1996) 年卒	谷口 剛	川崎 聡				
47	H. 9 (1997) 年卒	小寺 俊且 前北 馨	谷 嘉康	森 茂之	西本 祥仁	濱岡 勇介	小林 圭
48	H.10 (1998) 年卒	亀山 雄高	黒川 真行	寺西 富広			
49	H.11 (1999) 年卒	石川 快	廣江 安彦				
50	H.12 (2000) 年卒	高岡 功	徳田 征之	小林 敬英	齋藤 収		
51	H.13 (2001) 年卒	石井 強太	森川 渉	浅岡 良彦	治田 和明		
52	H.14 (2002) 年卒	毛呂 淳一朗	渡邊 慶太郎				
53	H.15 (2003) 年卒	森岡 多門	林 憲				
54	H.16 (2004) 年卒	塚本 大夢	中川 雅之				
55	H.17 (2005) 年卒	池端 俊太	小泉 貴史				
56	H.18 (2006) 年卒	大久保 匠馬	若林 隆晃	横澤 慶太	原口 惇		
57	H.19 (2007) 年卒	和田 亮	時田 亜希夫				
58	H.20 (2008) 年卒	宮山 明	佐藤 友紀				
59	H.21 (2009) 年卒	箱崎 勇人	本多 清礼				
60	H.22 (2010) 年卒	岡田 哲哉	中込 健太	工藤 雄太	松井 洋	古川 創一	
61	H.23 (2011) 年卒	井上 裕紀	富澤 直嗣	今野 秀一			
62	H.24 (2012) 年卒	荒木 謙人	岡本 尚之	加藤 将平	椎名 翔平	武藏 泰	
63	H.25 (2013) 年卒	星野 真瑠也	星野 宏太				
64	H.26 (2014) 年卒	市川 広大 新保 直毅	巽 祐一	池上 太悟	亀倉 玲	森 大和	内村 朝樹
65	H.27 (2015) 年卒	秋田 雅信	友野 雅樹	三浦 俊哉			
66	H.28 (2016) 年卒	小林 翔	恩田 真希	石川 直樹			
67	H.29 (2017) 年卒	菱刈 太一	本間 健太郎	大森 脩平	堀内 悠生	今野 裕三	南方 宏太
68	H.30 (2018) 年卒	松田 高幸	齋藤 正人				
69	H.31 (2019) 年卒	中山 元貴	堀永 尚				
70	R. 2 (2020) 年卒	長合 哲弥	關山 輝流	今野 真孝			
71	R. 3 (2021) 年卒	遠藤 界	脇田 克志	小溝 大	川津 智由	及川 太陽	細井 快
72	R. 4 (2022) 年卒	千葉 達博	桑名 郁弥	芝本 麟太郎	関口 雅都		
73	R. 5 (2023) 年卒	内田 貴久	長山 聖	永井 淳誠	香野 天晴		
74	R. 6 (2024) 年卒	夏 天碩	後藤 大翔				
75	R. 7 (2025) 年卒	小嶋 由平	沈 喆豪	関 大貴	永島 康太郎		
76	R. 8 (2026) 年卒	可知 權	山原 魁珠	内田 聖人			

■クラブ幹事

枇 杷 の 会	深瀬 啓司 (15期)	ホ ッ ケ ー 部	菅野 芳哉 (29期)	サ ッ カ ー 部	中村 直人 (38期)
硬 式 庭 球 部	秋山 太郎 (38期)	弓 術 部	小宮 雄造 (30期)	ス キ ー 部	渡辺 一仁 (51期)
硬 式 野 球 部	山下 孝 (34期)	端 艇 部	水井 智基 (36期)	鉄 道 研 究 会	滝上 紘之 (52期)
應 援 指 導 部	渡辺 伸一 (17期)	軟 式 テ ニ ス 部	枇々木 規雄 (34期)	ワ グ ネ ル	南 琳太 (61期)
卓 球 部	浅生 潤 (23期)	バ ス ケ ッ ト 部	木村 尚敬 (37期)	ワ グ ネ ル	山浦 元気 (61期)
バ レ ー 部	進藤 英典 (23期)	バ ス ケ ッ ト 部	平賀 敦巳 (41期)		

【幹事の訃報】

松本 仙太郎君 (1 期)

謹んでご冥福をお祈りいたします

令和 7 年度 慶應志木会 収支報告書

[令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日]

単位：円

収 入		支 出	
適 要	金 額	摘 要	金 額
前 期 繰 越 金	10,867,692		
維 持 会 費		会 報 費	3,088,800
新 入 会 費	7,500,000	会 議 費	891,480
物 販 収 入	512,510	交 際 費	90,790
雑 収 入	11,664	通 信 費	36,900
(含 : 通 信 費)		事 務 費	10,887
会 議 費	348,000	事 業 費	712,654
事 業 費	28,000	パ ソ コ ン 関 連 費	347,961
協 力 金	888,000	寄 付 金	700,000
		(収 穫 祭 ・ 卒 業 式)	
		卒 業 式	1,043,350
		(卒 業 生 記 念 品 ・ 志 木 会 賞)	
		雑 費	8,825
		(支 払 手 数 料 等)	
収入小計	9,288,174	支出小計	6,931,647
		次 期 繰 越 金	13,224,219
合 計	20,155,866	合 計	20,155,866

預金残高明細（令和 8 年 3 月末現在）

銀 行	種 別	摘 要	管 理	残高金額
ゆ う ち ょ	総合	新 入 会 費 口	原田	9,373,424
ゆ う ち ょ	振替	パ ー テ ィ 会 費 口	原田	0
三 井 住 友	普通	小 口 ～ 大 口	甲斐	1,180,451
ゆ う ち ょ	振替	維 持 会 費 口	芹澤	979,384
埼 玉 り そ な	普通	小 口	芹澤	1,690,960
合 計				13,224,219

【監査報告】

慶應志木会会則第 18 条に基づき、令和 7 年度（令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日）の収支報告を監査した結果、会計処理につきましては適正に処理されていることを此処に承認します。

令和 8 年 5 月 1 日

監 事 上西 正之 （押印略）
監 事 森田 榮一

編 輯 後 記

慶應志木会の Web サイトがリニューアルされました。
<https://keio-shikikai.com> 情報交流にお役立てください。
(27 期永井)

人生初ギックリ腰になりました。会報校正期間で発行に間に合うのかひやひやしましたが、今年も無事に完成してよかったです。(事務局・芹澤)

慶應志木会会報 2026.vol.46

編 輯 ・ 発 行 慶應志木会
(慶應義塾志木高等学校同窓会)
〒353-0004
埼玉県志木市本町4-14-1
TEL : 048-471-1959 (志木高内)
発 行 人 小坂 孝樹
発 行 日 2026年7月1日
印 刷 (株)アレックス
ウェブサイト <https://keio-shikikai.com>
電子メール info@keio-shikikai.jp